

3. シードペレット(パヒアグラス)による草地造成と利用

利用目的	区分	草種	播種量 (kg / 10a)	草種選定の考え方	播種		施肥成分量 (kg / 10a)						収穫利用		
					播種期間 (播種適期)	播種方法	地目	総量(うち元肥)			追肥			利用期間	収量 t / 10a
								窒素	燐酸	加里	時期	窒素	加里		
放牧利用	暖地型牧草	パヒアグラス (品種ナンゴク)	シードペレット 150~250kg (標準200kg)	1、パヒアグラスは光要求量が高いため、低標高地帯の北側斜面においてはオーチャードグラス等の寒地型牧草を播付した方が効果的である。 2、品種ナンゴクは放牧の期間延長が期待できる。 (低温伸長性)	6月上旬~7月上旬 (雑草発生の多い所は8月下旬播種)	シードペレット表面播種	開墾地	30 (10)	34 (34)	28 (10)	放牧利用の場合	20	18	(放牧利用) 造成利用2年目以降 5月~11月 草丈40cm(草高30cm前後)	放牧 5~6
							既耕地	28 (8)	20 (20)	26 (8)	下牧直後分施	20	18		
採草青刈用乾草	暖地型牧草	パヒアグラス (品種ナンオウ)	同上	1、品種ナンオウは盛夏期の乾草調製に有利な特性がみられる。 (盛夏期に偏った伸長性)	同上	シードペレット表面播種	開墾地	30 (10)	34 (34)	28 (10)	採草利用の場合	20	18	採草利用 5月~11月 同上4~5回刈 草丈50cm(草高35cm前後)	採草 6~8
							既耕地	28 (8)	20 (20)	26 (8)	刈取直後分施	20	18		

栽培上の注意事項

- 1、牧草の生育と温度との関係
暖地型牧草 10 以下で生育停止、25 以上で旺盛な生育を示す。
- 2、飼料畑造成等の要点
(1) 未墾地等の飼料畑造成順序
障害物除去 土壤改良資材半量施用 耕起 土壤改良資材半量施用 施肥 播種 (覆) 鎮圧
(2) 耕起深度は5cm程度とし、碎土整地は丁寧におこなう。
- 3、栽培上の要点
(1) 播種床の条件が悪い場合の播種量は20~50%程度増量する。
(2) シードペレットのパヒアグラスは高温、湿度の低いところには保存し、長期間の放置はしない。
(3) 放牧は草丈30~40cm程度、採草利用でも50cm以上としない。
不食雑草の掃除刈りの実施。
(4) 裸地部分が発生した場合には逐次追播して草地の維持管理に努める。

4、施肥上の要点

- (1) 目標収量は暖地型牧草で6,000kg程度で設定した。
- (2) 追肥は放牧型では下牧直後、採草型では刈り取り直後の施用を主体とするが、生育時期の要求量に応じて配分施用する。
- (3) 火山灰土壌では燐酸を3割増程度とする。
- (4) 土壤検定を行い、土壤改良資材を施用する。

	熔	燐	炭カル	堆厩肥
標準的な	開墾地	120	400	2,000
kg / 10a	既耕地	60	200	1,200
- (5) 2年目からの元肥は、早春肥とし2月~4月に施用する。初期の追肥は雑草発生の程度を見ながら行う。